

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第45週（11月8日～11月14日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎増加」

第45週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,910例であり、前週比2.6%減であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.90、3.60、0.99、0.42、0.32である。

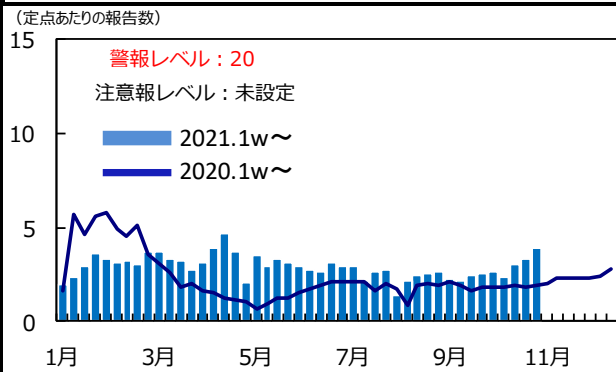
感染性胃腸炎は19%増の768例で、大阪市南部6.56、南河内5.56、大阪市西部5.50、中河内4.35、北河内4.23であった。

手足口病は前週比16%減の710例で、南河内5.81、中河内5.50、大阪市南部4.89であり、南河内、中河内の2ブロックで警報レベル基準値5を超えている。

ヘルパンギーナは18%減の196例で、大阪市北部1.57、中河内1.50、泉州1.45であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は4%減の82例で、中河内1.15、南河内0.75、泉州0.60である。

感染性胃腸炎



手足口病

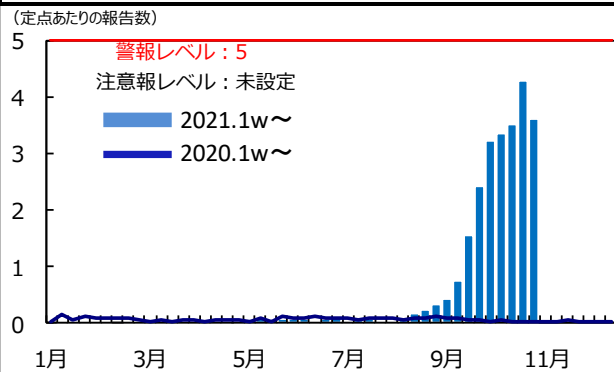


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第45週11月8日～11月14日）

第45週の順位	第44週の順位	感染症	2021年 第45週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第45週の 定点あたり 報告数	2021年第45週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	感染性胃腸炎	3.90	19%増	1.86	1歳_19%
2	1	手足口病	3.60	16%減	0.03	1歳_47%
3	3	ヘルパンギーナ	0.99	18%減	0.36	1歳_40%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.42	4%減	0.60	2歳_13%
5	5	突発性発しん	0.32	11%減	0.31	1歳_56%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	25%減	0.03	1歳未満, 6歳, 10-14歳 _33%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第45週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

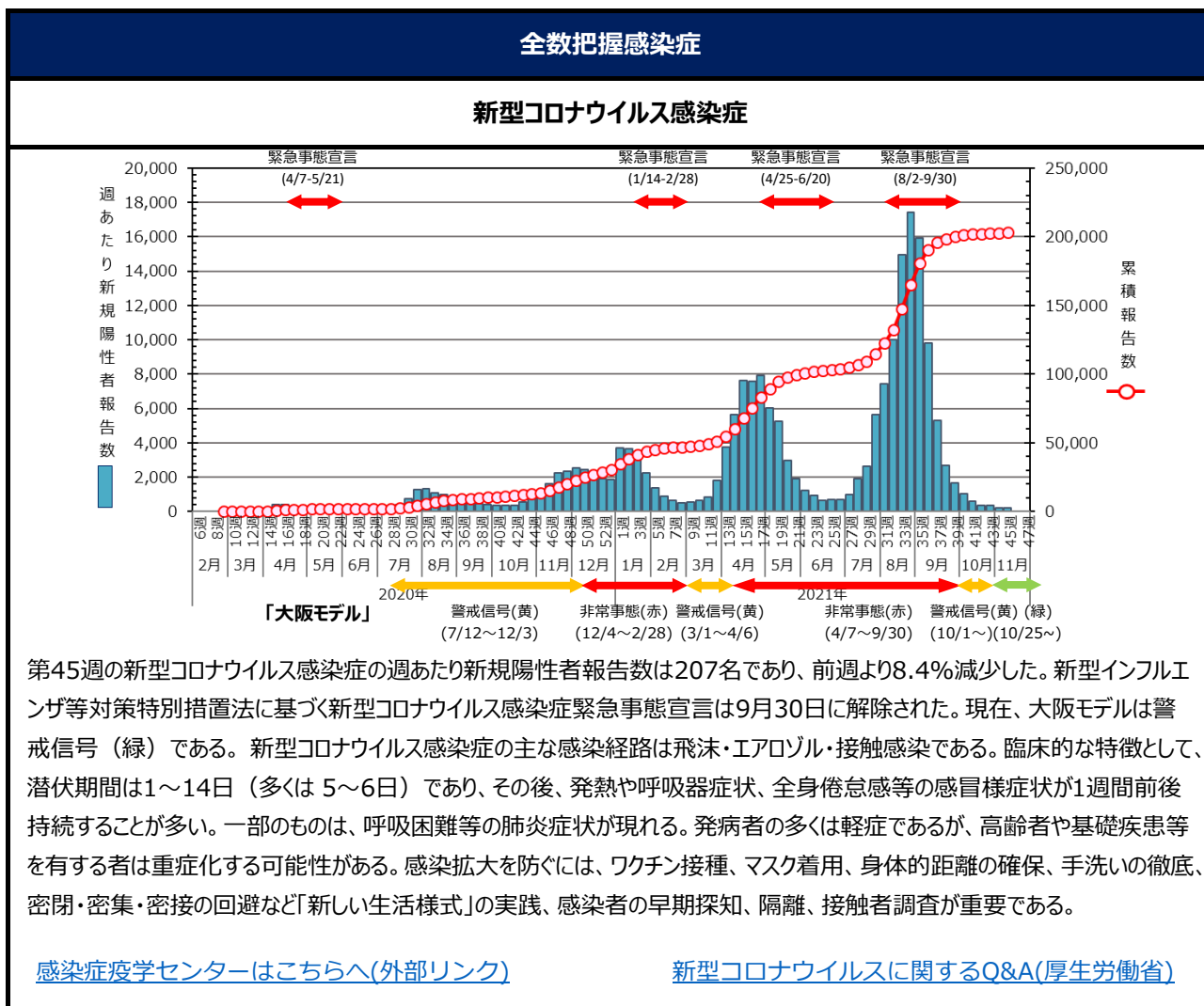


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第45週11月8日～11月14日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	4	1						1	2	166
4類感染症 レジオネラ症（肺炎型）	1		1							118
5類感染症	アメーバ赤痢	2			1			1		39
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		1					1	158
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1					30
	侵襲性肺炎球菌感染症	2			1	1				81
	梅毒	9			2				7	702
百日咳	2							2	35	
新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症	207	2020年1月以降累計 202,899								
結核 (2021年9月分)	結核 新登録患者数：73名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 35名) (府内累積報告数 832名、内 肺・喀痰塗抹陽性 323名)									

(2021年11月16日 集計分)